

【事業実績】

美術による人材育成事業として、学校・地域・美術館において多数のワークショップを実施した。全ての人が楽しめる美術館・美術館の教育普及プログラムの確立を目的として、特別支援学校プロジェクトを実施。美術のもつ柔軟性を活用して、複数の分野にまたがる内容の講座を開催。「色をめぐる七つの話」として、県内外から多彩な講師を招聘し、ワークショップ・レクチャーを実施。先生のための講座を幼稚園・こども園・小学校・中学校等の教員を対象に実施した。地域美術館体験では、学校や園を核として、地域をまきこみ、子どもから大人までが、本物の芸術に触れる機会を拡充できた。さらに、美術館のワークショップを学校の教育課程と連動させることにより、子どもたちがふるさとの歴史や文化などのよさを発信する取組も実施できた。

1. 学校教育との連携による地域文化の担い手育成事業

(1) 将来の文化の担い手育成する担い手育成講座

①美術に親しむための学校ワークショップ（6月～2月まで随時実施）

○学校ワークショップは、64回の講座に43校、2,123名が参加した。このうち、アウトリーチ系ワークショップを51回実施するなど、県内各地域で美術体験の機会を提供することができた。県内各地域で美術体験の機会を提供することができた。

○美術館に来ることのできる学校・園に対しては、美術館の所蔵作品の鑑賞体験も含めた、美術体験プログラムを用意した。美術館までくることの出来ない学校・園に対しては、スタッフが出かけて行って、色や形、素材体験を全身で楽しむプログラムを用意した。美術に触れる学校・園の裾野の拡大がすすんだ。



にしき子ども園ワークショップ



明星幼稚園ワークショップ



津久見市立第一中学校ワークショップ

②指導者・先生のための講座（7月29日～8月23日の間に7回及び12月10日に実施）

○美術館が行う教職員研修として、幼児・児童・生徒の、芸術を楽しむ感性、新しい視点から物事に取り組む独創性、郷土の美術文化に親しむ子どもの育成を目指す園・学校の先生向けの講座を「先生のためのワークショップ」として実施。「学校・各園での指導に活用したい」が95%を超えるなど、高い評価であった。



外部講師を招いての講座



地域の図工・美術教師対象の講座



教職を目指す学生のための講座

(2) 視覚や聴覚に障害のある児童が美術館を楽しむ特別支援学校プロジェクト

①教材開発会議 (適宜実施)

○大分県立聾学校及び大分県立盲学校、大分県教育委員会との連携による「特別支援学校プロジェクト」として、こどもの実情に応じた美術館教育・ワークショップのあり方について協議。美術館が行う教育普及についても貴重な意見が得られた。実際のワークショップに活かした。

②あらゆる人が楽しめる美術館 (ふれる・感じる美術館)

○県立聾学校幼稚部・高等部及び県立盲学校小学部の子どもを対象としてそれぞれ「園・学校でのワークショップ」と「美術館での美術体験活動」を実施。学校では体験できない活動を通して、子どもの積極的な姿が見られた」等の意見が教職員から出された。



聾学校幼稚部の美術館体験



聾学校高等部のワークショップ



盲学校小学部のワークショップ

(3) 美術作品を活用した地域ぐるみ・学校ぐるみの美術体験講座 (地域美術館体験講座)

①「地域まるごと美術館」 (6月12日(水)～21日(金)実施)

○地域まるごと美術館(竹田展)を、竹田市総合文化ホールグランツたけたにて開催し、一般観覧者を含め757名が来場。市内の公立・私立の幼稚園・こども園の5歳児、小学校3年生、中学校1年生、特別支援学校小学部～中学部の全児童・生徒が参加した。地域の作家の作品や地元の風景を混ぜて展示を行ったところ、小学生の94.2%、中学生の96.1%が「大分や、竹田の魅力を見つけた」と回答した。

○会場には県立美術館の学系員や県内各地域の博物館の学芸員を配置し、博物館の交流の拠点となる県立美術館の新しい機能を担った。

○実施に向けては、市内全戸にチラシを配布し、地元のケーブルテレビ等も活用して広報をした。また、テレビニュース及び新聞等にも取り上げられ、地域の住民の関心・意識を高めることにつながった。



オープニングイベント



美術館学芸員による作品解説



県内博物館学芸員による作品解説

②「スクールミュージアム(姫島中学校・姫島小学校)」 (11月15日(金)～17日(日)実施)

○スクールミュージアム(姫島小学校・姫島中学校)は、姫島離島センターやはずで開催。地域の幼稚園・保育所から小学校・中学校までの全ての子どもを招待。島の文化祭と同時開催し、地域の

方にも広く公開するため、会期を1日から3日間に延長。島内の全小・中学生や保護者、一般を含む711名が来場した。地域の一般の方を含む約80%の児童・生徒が「作品をいろいろな見方ができた」、「好きな作品をみつけた」、「心に何か感じた」と回答した。また、一般来場者の88%が「満足した」と回答。今回の会場が離島であったため、「本物の絵にふれる機会が少ない」、「帰りのフェリーを気にしないといけない」、「高齢で出かけるのが困難」との意見が並ぶ中、回答者の94%が「美術館にも行ってみたい」と回答した。

○展覧会とあわせて陶芸家の福永泰信氏を講師として招聘した講座を2日間開催。親子や一般の方が参加し、地域の美術文化の発展に寄与した。

○実施に向けては、村内全戸にチラシを配布し、広く周知に努めた。取り組みの様子は、3日間を通して地元のケーブルテレビの取材を受け、村内全域に取り組みの様子が報道された。また、新聞等にも取り上げられ、地域の住民の関心・意識を高めることにつながった。



ガイドスタッフと共に作品を見る



村内の子どもを招待



福永氏による講座

2. みんなの美術推進事業

(1) 新たな視点から美術文化を創造する特別講座

①美術館と歴史博物館の連携講座～道具の博物誌～ (3月実施予定→中止)

○新型コロナウイルスによる休館・ワークショップの全面中止により、チラシ作成・配布までは行ったが、事業は実施できず。

②連携講座～美術館をめぐる7つのお話し～ (10月12日～1月18日の間、7回実施)

○「美術館をめぐる7つのお話し」をテーマとして美術館・博物館のありかたについて、県内外から多彩な講師を招聘し、ワークショップ・レクチャー(連続講座)を7講座開催し191名が参加した。講師は、専門的な内容を分かりやすく説明し、受講者から「このような講座を継続してほしい」という声が寄せられた。参加者は美術文化の発信拠点としての美術館・博物館の役割について学び、美術文化への興味・関心を高めた。



其の一 加藤康彦氏



其の三 貝塚健氏



其の七 木下直之氏

3. 美術によるグローバル人材育成事業

(1) 地域の創造性を芸術体験を通して育てる拠点づくり

○美術の視点からまちづくり・人づくりを考える地域づくり講座を国東市立安岐中学校を拠点として実施。地域の伝統産業・文化についての学習を通じて、自身のキャリアについて考える取り組みとした。また、調べたことを発信する力の育成を目指し、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学習を実施し、美術館活動を通じた人材育成を行うことが出来た。手立てとしては、七島藺作家として活躍している岩切千佳氏を講師に招いてワークショップを行い、七島藺について学習、APU（立命館アジア太平洋大学）の学生との交流を通して国東・七島藺をアピールした。また、学生に対して「日本で学ぶ目的」等を質問し、生徒自身のキャリア教育を深めることも目指した。



岩切氏による講座



作品づくりワークショップ



生徒が作った七島藺の作品



留学生へのインタビュー活動



県立美術館での美術鑑賞体験



生徒による取組成果の発表

○事業の成果

国東市立安岐中学校は、教科横断的な学習において、本実行委員会及び大分大学と連携した取組を3年前から継続して実施している。この取り組みを通じて「安岐中学をはじめとする地域の学校の総合的な学習の質が高まった」との評価を国東市教育委員会よりいただいた。安岐中学校に関しては、生徒が地域に誇りを持ち、広くアピールしていく意欲とコミュニケーションのスキルを高めることが出来た。地域文化の担い手の育成につなげることができた。

取組の様子は、地元のケーブルテレビや新聞等にも取り上げられ、地域の住民の関心・意識を高めることができた。



大分合同新聞の記事

4. 教育効果検証事業

(1) 検証会議（2月16日 実施）

アートフル大分プロジェクト実行委員会が主体となり、有識者、県教育委員会、事業参加市町村教育委員会の代表や、事業に参加した園・学校関係者が参加し、各事業の教育効果について報告・検証

を行った（資料別添）。参加者からは、「ワークショップなど、子どもの実態に応じて細かな気遣いと共に十分な準備をした上で、ていねいな活動を行っていただいたことで、子どもの意欲の向上につながった。」「子どもたちが美術館のワークショップを楽しみにしている。」「美術館と学校が協働した事業により、美術を通じた教科横断的な学習の取り組みの質が高まった。」等の評価を得た。



会の全体の様子



アートフル大分実行委員会



意見を述べる事業実施校の代表

(2) コーディネータ会議（適宜実施）

それぞれの事業実践の現場に検証委員を派遣し、事業の運営や、子どもたちの様子から見える教育効果について調査を行った。検証委員の報告や参加者のアンケート結果等を基に実践分析を行いながら、事業のブラッシュアップを図った。また、コーディネータ会議での協議を受けて検証会議に向けての報告書作成等を行った。



検証委員による事業調査



事業実施地域での会議

総括

「学校や地域と連携した美術による人材育成事業」では、県内全域において、美術館活動に参加できる体制を整備することができた。具体的には地域美術館体験講座など、地域に美術館の作品を持ちだし、地域の保・幼・小・中学校の子どもたちの鑑賞機会を充実させる取組を行った。また、子どもたちのみならず、一般公開し、地域住民に対しても美術鑑賞の機会を提供した。平成 27 年からはじめて、トータルで県立美術館の立地する大分市を除く 17 市町村中 12 市町村での実施となり、計画通り県内全域での普及率 70.6%を達成した。本事業では、県内の博物館の学芸員を配置し、博物館の交流の拠点となる県立美術館の新しい機能を担った。スクールミュージアムにおいても、特別講座を開催し、学校をはじめとする地域の美術に関わる方々の意識を高める取り組みをした。特別支援学校プロジェクトのモデル校として、県立盲学校・聾学校の 2 校と連携して取り組み、目標である県全域での活動率 16.6%を達成した。

学校ワークショップは、64 回の講座に、43 校、2,123 名が参加した。このうち、アウトリーチ系ワークショップを 51 回実施するなど、県内各地域で美術体験の機会を提供することができた。

定性的な指標としての目標に対しては、講座等において「ガイドスタッフと一緒に作品を見ることに

意義があった」(美術鑑賞に対する満足度)と答える先生は90.9%、「何か新しい気づきがあったと答える生徒の割合(感動体験)」は93.2%など、高い数値を示した。

また、地域づくり講座として、美術館のワークショップと学校における地域の伝統文化や自分自身のキャリア教育についての学習を連動させ、「地域に誇りを持ち、その担い手としての力と自信をつけさせる」「国際理解の観点から、自分の言葉で表現・アピールする力をつけさせたい」「国際理解という観点から、英語を活用する力をつけさせる」という目的で学校と共に教育活動を構築した結果、コミュニケーションや進路、地域の知名度など、学生から何らかの「学びがあった」と答えた生徒が96.8%となるとともに、生徒からは、「ふるさとの良さが再確認できた」「自信をもっている人とのコミュニケーションを取る自信がついた」といった感想が得られ、「地域に誇りを持つことができた」と回答した生徒は98.4%と高い数値を示した。

なお、2月下旬から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ワークショップの中止や辞退などが発生するとともに、3月2日には美術館が臨時休館になるなど、企画・募集を行った事業の一部を中止せざるを得なかったのは、非常に残念であった。



びじゅつかんの旅（にしきこども園）



スクールミュージアム（姫島小学校）



スクールミュージアム（姫島小学校）



姫島小学校ワークショップ



びじゅつかんの旅じたく（大道小学校）



検証会議（助言者側）
（発言する井上国立博物館副館長、
左は御手洗前文科省事務次官）